



# 向陵広場

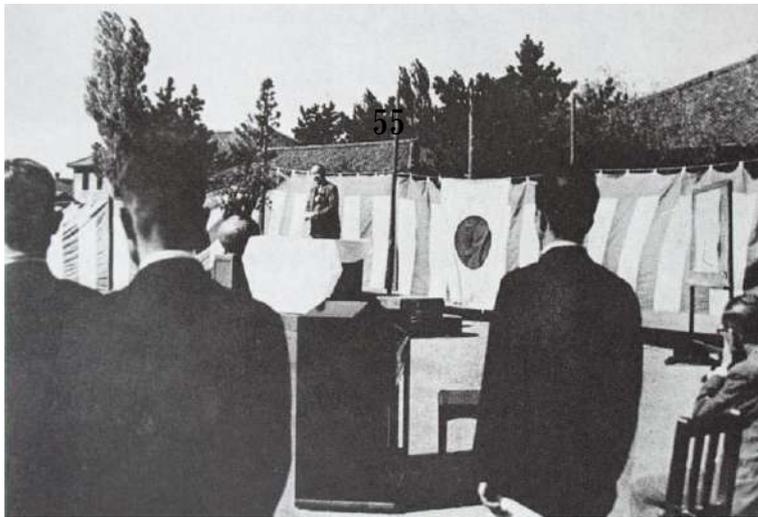
発行号 第27号  
発行日 平成30年3月16日(金)  
発行元 向陵編集校友会  
責任者 伊藤有司(県10回卒)

## 豊商同窓会四代会長 近藤 新太郎 (県商1回卒) 昭和27年3月卒

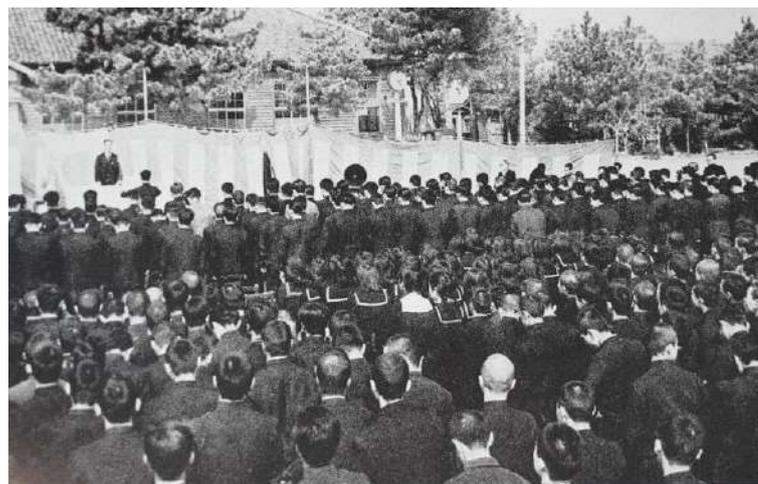


近藤 新太郎 氏

私が小学生であった時期はまさに戦時下で、高学年になるとだんだん食料品など全ての生活必需品が不足し、耐乏生活は一段と深刻化していった。それでも私を含め多くの子ども達の将来も軍人願望であった。学制も昭和16年には国民学校に変わり、戦時体制にあった。小学校の低学年でも戦時教育で武道や教練が学習の中に組み込まれていた。でも、私にとってそれほど苦しい思いをした記憶はない。それより昭和20年になると空襲が多く、空襲警報で防空壕に入って警戒警報解除の知らせが鳴るのを待っていた。その間中、いつ爆弾が落ちるか頭を抱えていた記憶が鮮明にある。そして豊橋大空襲は焼夷弾攻撃がはげしく、一夜で豊橋の市街地が廃墟し、私の家も焼け住むところがなく、私は祖父と袋井に疎開した。袋井といっても可睡齋のある久努西村で祖父母の親戚の家から久努西村小学校に通った。終戦はここで聞いた。ここでの毎日も農作業の手伝いと子守であった。祖父の意向で豊橋の中学校へというので翌年3月には豊橋の小学校にもどり入学、受験勉強に集中し、豊橋商業学校に入学した



昭和26年10月26日 創立記念式



昭和27年3月 第1回卒業式

私達が県立商業を卒業した年に「豊商同窓会」が発足し、会長及び私商一人、市商一人、女商一人、県商1名の副会長が置かれ、私は県商出身副会長として昭和27年卒業と同時に就任した。それから平成9年、神谷会長の退任のあとを受けて、豊商同窓会の会長に就任した。10年後の100周年の記念事業を完成するという責任がついていた。それまで私はどのような形で100周年を祝おうかとその準備に時間をかけた。でも会長として先輩も納得する形で、しかも次の100周年につなぐ周年行事にしたい。卒業してくる県商の卒業生が大半を占める時代を迎えて豊商同窓会の卒業生の構成は大幅に変わってくる。私商、市商、女商の先輩の数は大幅に減少していく状況のもとで県商の卒業生が過去の歴史を振り返り、誇れる100周年を無事に祝うだけでなく、新しい県商の出発点にしなければならないと考えていた。そして戦中のきびしい歴史の上に立った「温故知新」を大切に、「豊商」を考える、次の新しい「豊商同窓会」を明確に意義づける100周年にしなければならない。

幸い不可能と思われた資金集めも順調に、記念式典も盛大に実施された。ただ私にとっては100周年を期に後輩に会長を交代する予定で次の会長の選任の役目が残っており、次期会長選任委員を指名して人選を続け辻村良夫氏を得た。次

の年次総会で予定通り私の責任は終わった。(豊商の群像Ⅲ向陵の人々③より抜粋)